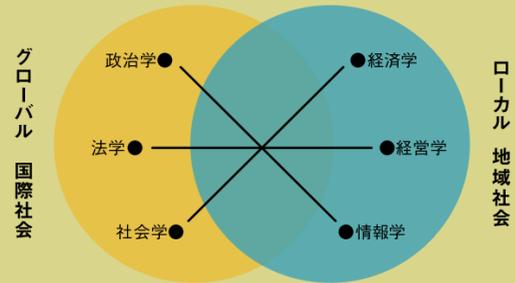


政治経済学部 政治経済学科の紹介

政治経済学科の学び

世界と地域の視点を併せ持ち、現代社会を理解する

政治経済学科では、「政治学」「経済学」「法学」「社会学」「経営学」「情報学」という、社会科学を構成する重要な六つの分野を学ぶことができます。現代社会を考える多様な視点が身につく、入学後に自分の興味・関心を見定めることもできます。国際社会の平和を追求するグローバルな視点と、地域社会におけるまちづくりの実践に繋がるローカルな視点を獲得できるよう配慮しています。



卒業生紹介

file.no 平間 健一

01

2007年政治経済学科卒業
タイムズサポート株式会社
ファイナンシャルプランナー
として活躍中!



聖学院で学んだこと

在学中は好奇心が刺激され続け、124単位で卒業できるところを、他学部履修を含めて183単位を取得しました。仕事で直面する課題を俯瞰的に見たり、相手の立場で考えたりできるのは、さまざまな科目を学んだことで多角的な物事の見方を養えたからだと思います。大学生活の集大成として取り組んだ卒業論文が最優秀賞を受賞できたことはよい思い出であり、私の誇りでもあります。

file.no 守永 彩乃

02

2016年コミュニティ政策学科
(現政治経済学科)卒業
Meiji Seika ファルマ株式会社
製薬会社のMRとして活躍中!



聖学院で学んだこと

政治経済学部に進んだのは、卒業後どのような職業に就いても発揮できる、社会人の基礎力が身につくと考えたため。実際、在学中に力を注いで学んだコンピューターや情報学に関する知識は仕事を問わず求められますし、アカペラ部の活動を通して学んだチームワークは、今の職場でも大切にしています。在学中はもちろん、社会人になった現在も、ゼミの先生は頼れる相談相手です。

2021年度 オープンキャンパスや説明会に参加しよう!

オープンキャンパス、入試対策講座 要予約

7/17(土) 24(土) 8/21(土) 23(月)

9/4(土) 25(土) 10/30(土)

*新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止や変更(オンライン開催)となる場合がございます。

Check!!

最新のタイムスケジュールやプログラムは、大学ウェブサイトを確認をお願いします。

オープン
キャンパス
情報



LINE チャット
進学相談

質問
受付中!!

受験生の方対象のLINEチャット(トーク)による個別相談をオープンしています。聖学院大学LINEを友だち登録していただき、トーク画面からいつでも質問できます。気になることや知りたいことなどをお気軽にご相談ください。



聖学院大学

政治経済学部
公開講演会
2021

ポストコロナ時代を導く視点を求めて

OPEN
LEC-
TURES
2021

申込不要・入場無料



Love God and Serve His People

聖学院大学

一人を愛し、一人を育む。
一政治経済学部 政治経済学科一

お問い合わせ

048-725-6191

アドミッションセンター 月~土 9:00-17:00

〒362-8585
埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL 048-781-0925

FAX 048-725-6891

MAIL pr@seigakuin-univ.ac.jp

ACCESS
JR高崎線「宮原駅」西口、またはJR埼京線「西大宮駅」北口からスクールバスがあります。「宮原駅」西口、「日進駅」北口から徒歩約15分。

https://www.seigakuin.jp/



ポストコロナ時代を導く視点を求めて — 地球環境、困窮する生活者、オンライン化に潜む陥穽を考える —

コロナウイルス感染症によるパンデミックが地球の全面を覆い、日常の隅々に至るまで地殻変動のような社会変容を促していますが、人類はこれまでも、ルネサンス、宗教改革、産業革命、大恐慌、二つの総力戦による世界大戦、冷戦、脱植民地化、情報革命、グローバル化など数々の「大変動」を経験してきました。「ウィズコロナ」「アフターコロナ」「ポストコロナ」などの呼称が用いられながらも、依然として私たちはコロナ時代の渦中にありながら更なる深化・拡大を続けていますが、しかしいずれ、幾つもの社会変容の過程を経て、新しい社会形成への指針を見出してゆくことが喫緊の課題として求められています。

待たなしの地球環境悪化に抗する協働と連帯の課題、コロナ禍によって浮き彫りにされている生活者の困窮への対策、そして、リモートワークやオンライン授業など一気呵成に進むオンライン化・デジタル化に伴うさまざまなリスクの可視化。歴史的な「大変動」のなかで後景化しがちなこうした課題に正面から向き合い、ポストコロナ時代という新しい時代を創り上げてゆくための叡智を見出してゆくために、ともに学び、ともに考える機会を皆さまと共に分かち合いたく願っております。是非、ご参加ください。

聖学院大学 政治経済学部 部長・教授
高橋 愛子



10/27 WED ポストコロナ時代の 環境保全活動へのいざない — ローカルな協働とグローバルな連帯へ —

ラムサールセンター共催

現代社会では環境保全への関心が高まり、地域、全国、そして地球レベルで人々が協働し様々な活動を行っています。しかし、持続可能な社会を実現するには、各レベルの活動が相乗効果を生むように連帯することが求められます。こうした連帯はどのように構築されるのでしょうか。

この講演会では、特に湿地保全活動に焦点を当て、3名の講師にお話しいただきます。昨今の環境政策にかかわる学術的課題や、ラムサールセンターによる国内外での活動の意義はもちろん、ローカルとグローバルをつなぐユース世代の活動にもぜひご注目ください。

ご講演を通じて、ポストコロナ時代の環境保全活動について皆様と一緒に考えていきたいと思います。

講師



岩崎 慎平先生
福岡女子大学准教授・
ラムサールセンター会長

現職：福岡女子大学国際文理学部環境科学科准教授・ラムサールセンター会長。博士（地球環境学）。専門は環境生活学、環境資源管理。日本およびアジア開発途上国地域の環境国際協力事業に従事し、調査研究・環境保全活動の両面をライフワークとしている。



佐藤 琢磨さん
大正大学魅力化推進部
魅力課職員・
ユースラムサール
ジャパン代表

広島県福山市出身。和歌山県の自由学校さのくに子どもの村学園で学校生活を送り、自然や生き物に興味を持っていた。都留文科大学に入学後、湿地保全へと足を踏み入れる。NGO団体ユースラムサールジャパンの代表を務め、アジア湿地シンポジウムやラムサール条約COPなどへ参加。国内・国外のユースと連携し、ユース世代による宣言文を作成するなどの成果を残した。現在はグリーンインフラを学ぶため大正大学に勤務。



中村 玲子さん
ラムサールセンター
前事務局長

1947年、東京生/ラムサールセンターフェロー/出版社等勤務を経て1988年からフリーの自然・環境ライター、エディター。1990年、ラムサール条約と湿地の賢明な利用を促進するNGO「ラムサールセンター」の設立に参加。2019年6月まで事務局長。日本とアジアの湿地保全の推進のため「アジア湿地シンポジウム」や「KODOMOラムサール湿地交流」など普及啓発、環境教育活動に注力。2005年、「ラムサール条約湿地保全賞（教育部門）」を日本人で初受賞。

会場
聖学院大学チャペル

コーディネーター

政治経済学部
准教授
鈴木 詩衣菜



政治経済学部
准教授
若原 幸範



11/24 WED コロナ危機からその先へ — 生活保障をどう考えるか —

コロナ禍の影響が長引くなか、これまで臨時的な対応策が矢継ぎ早に打たれてきましたが、多くの人びとが引き続き生活に不安を抱えており、場合によって状況は深刻化させています。

コロナ禍に対する臨時的な対応策のあり方も重要ですが、むしろ私たちが考えるべきは、コロナ禍が起こる以前に、既存の生活保障システムが機能不全に陥っていたということです。コロナ禍は、それをあぶり出したにすぎません。この回は、財政や生活保障の問題に取り組んでこられた高端正幸先生をお招きして、「ウィズ・コロナ」そしてその先の将来における生活保障のあるべき姿と、それを実現するために私たち一人一人に求められることについてご講演いただきます。

人びとが安心して暮らしていくにはどのような生活保障への支援が必要か、ぜひ一緒に考えましょう。

講師



高端 正幸先生
埼玉大学
人文社会科学部
准教授

東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。博士（経済学、横浜国立大学）。聖学院大学政治経済学部講師・准教授、新潟県立大学国際地域学部准教授等を経て、2015年より現職。専門は財政学、地方財政論。主著『福祉財政』（共編著、ミネルヴァ書房、2018年）、「財政学の扉をひらく」（共著、有斐閣、2020年）など。東京都税制調査会委員、朝日新聞論壇委員などを歴任。

会場
聖学院大学7401教室

コーディネーター

政治経済学部
准教授
長嶋 佐央里



政治経済学部
准教授
柴田 怜



<インターネット><表現の自由><ヘイトスピーチ> — ポストコロナ時代の人権を考える — 01/12 WED

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちの暮らしのすべての局面においてインターネット利用の加速度的な拡大と深化をもたらした一方で、ネット上のプライバシー侵害、名誉毀損、ヘイトスピーチ（差別煽動表現）などの様々な弊害を深刻化させました。いま私たちは、ネット上の表現の自由を十分に尊重しつつも、これら現代の病理と正面から向き合うことを求められています。

そこで今回、ヘイトスピーチ等の問題に精力的に取り組む弁護士・宮下萌さんをお招きし、この問題についてお話していただく機会を設けることとしました。ネットと人権の問題に関心をもつ皆様のご参加をお待ちしております。

講師



宮下 萌 弁護士

埼玉県生まれ。早稲田大学法学部、同大学院法務研究科修了。キーストーン法律事務所所属（東京弁護士会）。国際人権NGO「反差別国際運動（IMADR）」特別研究員。「ネットと人権研究会」メンバー。弁護士として様々な民事事件を扱う傍ら、インターネット上の人権侵害、ヘイトスピーチ等の諸問題に取り組む。著作に「保護法益から再考するヘイトスピーチ規制：人間の尊厳を手掛かりに」[LAW AND PRACTICE]13号（2019年）。

会場
聖学院大学チャペル

コーディネーター

政治経済学部
教授
石川 裕一郎



感染状況次第では、対面開催ではなくオンライン・リアルタイム配信とする場合があります。詳細は大学のホームページでお知らせいたします。